



編集発行記念文集

<付／20周年記念事業>



平成17年7月23日

君津市貞元コミュニティセンター
開館20周年記念事業

実行委員会役員 地区代表編集委員 協力者

ふれあいマップ編集に関わって

——地区代表編集委員の文集——

魅力ある「ふれあいマップ貞元」

編集委員長・貞元小学校長 河野 真 隆

最初、この期限でこれだけのものができるのかと危ぶんだ「ふれあいマップ貞元」でした。しかし、会議を重ねるごとに信じられないスピードで編集が進んでいきました。その結果、貞元地区にとって財産が一つ増えたと感じられるほどのすばらしい作品となったことを作成に携わった一員として喜んでいます。また、作成時に学校での活用ということも一つの視点として加えていただいたことも大変有り難いことと感謝しています。

現在、学校では貞元の過去から現在までの情報の詰まったこのマップを「地域理解を深めるため」「防犯安全確保のため」に早速活用しています。子どもたちは多くの写真に興味を持ちました。写真

から新しい発見や確認をしていることもあるようです。多い写真が子どもたちの理解を助けています。私は子どもたちがこのマップの調べ学習の中から自分の住んでいる地区だけでなく、貞元地域への視野の拡大が進んだらと期待しています。我々教師も貴重な写真に貞元を再認識するとともに地域の全体像把握に便利で子どもの安全指導にも効果を感じています。この二つの視点からマップのページを繰ってもそのたびごとに新しい発見をします。今更ながら情報量の多いことに驚きます。

今後、更に活用を進め、子どもたちに郷土「貞元」に対する理解と愛着を高めていきたいと考えています。

「ふれあいマップ貞元」作りにあたって

郡 萩野 保

貞元コミュニティセンターが開館20周年を迎えるにあたり、私達に何が出来るか！何をすべきか！地域に密着したもの、失われつつあるものを記録し、私達の生きた証しを、後世に残し伝えようと「手づくりマップ」の構想ができました。

実際に自分の目で見て、耳で聞き、足で歩いて、郡を廻って見て、今まで何気なく通り過ぎていた車や、新しい発見等素晴らしい事に沢山めぐり逢えて大変勉強になりました。

私の住んでいる郡地区も少子高齢化が進み、年々活気が失われています。まちに子供の姿を見

かける事も少なくなり寂しい思いがします。活気溢れる、住み易く美しい「まち」にするにはどうしたら良いのか、今を生きる私達の努めかと思えます。

幸いに、郡地区には美しい郡ダムと、千年の歴史を持つ春日神社、そして正福寺と寛げる、憩いの場所があります。本年7月中には、念願だった郡ダムの遊歩道も完成し、一般に開放されます。

郡の「まち」全体を花で埋め尽くし、多くの人々に来ていただき、又郡から離れた人達にも是非帰って来ていただき、住んでみたくなる活気溢れる「まち」にしたいと、マップ作りにあたっての私の思

いです。

編集に携わった人

自治会長 萩野 保 萩野徳寿 三幣頼子
三幣 昇 萩野 薫 岡田伸一

ふるさとマップ「貞元」に携わって

杉 谷 鈴木 健 治

貞元コミセン20周年記念事業の一環として、「ふるさとマップ」づくりが提案された。事務局の齊藤貞夫氏の熱意ある提案・説明に、役員一同大きく心を動かされ後世に伝える故郷マップになればと一念発起。

手本は「手づくり周南マップ」。まずはこれに近づく資料収集。各自治会員への呼びかけと資料提供の依頼。

歴史・史跡・伝統・文化の資料収集は何とか進展するも、個人情報に関して難題とぶつかることに。一つ一つの課題克服に、記念事業役員さんたちの知恵が生かされ「マップ」編集へのエネルギーがみなぎっていった。一步一步前進の背景には、マ

ップ編集に対する齊藤貞夫氏の献身的な想いがあり、皆を動かす原動力となった。編集作業は時間との戦いであったと思われるが、平野功氏を中心にパソコンをフル活用して、マップに対する想いが確実に蓄積されていった。膨大な時間とエネルギーが費やされ、マップが完成した。

「ふるさとマップ」の意義が浸透し、全戸購入いただき、まさに「地域コミュニティ」の目標が達成された。意義深い記念事業となったことに、改めて感謝します。

編集に携わった人

自治会長 鈴木健治 鈴木文男

多くの方達とお会いできて

新御堂 大和田好文

初めに「ふるさとマップ」に携わった皆様、本当にお疲れ様でございました。ご迷惑ばかりで申し訳ございませんでした。

この話を初めて聞いた時は、正直な話、「仕事も忙しいのに、面倒くさいなあ」と思った事を覚えています。でも皆様の熱意を感じ、頑張るしかないなと思いました。

私は、貞元の間人ではないので、今まで近所のお年寄りの方達と話をする機会など、まるでありま

せんでした。朝、仕事に出かけ夜帰宅し休みの日は家族と過ごす、部落の仕事などで、たまに部落の方達と接触する位でした。この編集のために話をした事のないお年寄りに接して、とても嬉しく感動しました。一生懸命話をしてくれるおじいさん、息子のように接してくるおじいさん、急に取材に行っても、いやな顔をひとつもしないで、ニコニコ笑って応対してくれる人。

「ご苦労様ね、大変だね、頑張ってるね」と声をか

けてもらいました。とても嬉しかった。

まるで地元の人のように接してくれた方達には、とても感謝しています。

そして、「マップ」作り一緒に携わった皆様にお会いできて、編集仲間に入れて頂いて、今ではとても感謝しております。本当にありがとうございました。

故郷にUターンした知人の感想

良いものを作ってくれました。貞元にも結構史跡があったんですね。昔の道が裏道になったり、山道も舗装され、友達を尋ねるのに苦労していました。屋号が入ってるので助かります。

終戦直後、入学式の写真に下駄履き、緋(かすり)の着物姿が散見される頃に育ち、最近数十年振りに故郷をUターンした知人の感想です。

こんな話を聞くと暑い中、寒い中を各部落から集まった編集委員と写真を撮りに行ったり、年中行事などを調べたり、資料集め、広告依頼に走り回っていた頃の苦労に、懐かしさが湧き起こってきます。

郷土愛の再発見を願って

貞元コミュニティセンター開館20周年を迎え、その実行委員会が組織され、メイン事業として『ふれあいマップ貞元』を発刊することが決定した。併せて、年度内に記念式典も盛大に催す事となった。

通常のコミセン行事に加え、これを確実に消化する事は容易なことではない。特にマップ作成が

これから、何かありましたらお声をかけて下さい。また、よろしく願います。

編集に携わった人

自治会長 大和田好文 山田修治 山田 信
小川 孝

貞元 北川昭男

時の流れとともに生活様式、生活習慣人々のふれあいが少しずつ変わり、何年かすると忘れられてしまうそんな時代です。

貞元の歴史街道「ふれあいマップ貞元」がこれから先、若者達に活用され地域の方々のお役にたって戴ければ編集に携わった一人としてこれに優る喜びはありません。

編集に携わった人

自治会長 北川昭男 三澤桂子 宮寄 慎
坂本正雄 平野宏行 宮寄博之 相原克史
大滝純一 鮎川正幸 山中教雄 和田 善
鈴木賢昭 佐久間清

八幡 鶴岡大樹

大変だと思った。残された日数が限られている。人員、予算等限定される中、知恵を絞り協力して進むしかなかった。

小林実行委員長、齊藤事務局長らの強力な推進力を中心に、編集委員会の熱意が、貞元地域特有の結集力を生んだ。地域を廻り、写真を撮っ

ては切り貼りを繰り返した。図面を構成する中で徐々に絵図が出来、見事な製本になった。ここに、一つの形として『ふれあいマップ貞元』が完成した。

今思えば、コミセン20周年の節目に、私も実行委員の一人として、参画できた事は、貴重な文化体験となった。この『ふれあいマップ貞元』が表題

ふるさと再認識

マップ完成から5ヶ月。今、改めて開く『ふれあいマップ貞元』。1枚1枚ページをめくるとよみがえるマップ編集の思い出。自分の郷土を見つめ直した地域散策、郷土愛に満ちた情熱あふれるリーダーとの出会い、コミセンでの編集作業の追い込み、多くの者が力を合わせて一つのものを作り上げる素晴らしさ……。

多くの感動、多くの学びがそこにあった。

我が小香地区では、全ての家庭がこのマップを購入した。配布の際には、次のような声が上がった。「写真や図が豊富でわかりやすい。」「これは屋号が入っているところがいいね。」「情報満載で力作だね。」等々。これらの言葉はマップ編集に携わっ

身近に置いて、活用してほしい

今回、マップ作成に微力ながら協力させていただきました。

マップを4冊購入して、私の妹と弟、そして子供達にも分けてあげました。

のように、歩く、見る、知るの基になって、一人でも多くの方々に活用され、郷土愛の再発見となればと願うばかりである。

編集に携わった人

自治会長 鶴岡大樹 石崎清治 池田広信
鮎川 正

小 香 川 名 忠 弘

た一人として何よりもうれしい。

貞元に生まれ、貞元で育った自分にとって、ふるさと貞元への愛着は強い。ただ、今回のマップ編集を通して、知らないことも多いことを実感した。貞元のよさ盛りだくさんの『ふれあいマップ』。ふるさと再認識である。今、もっともっと貞元のことを知りたいという思いでいっぱいである。

いつも手元に置きたい『ふれあいマップ』、多くの人に見せたい『ふれあいマップ』、宝物として大事にしたい『ふれあいマップ』。

豊かな自然、豊かな心の貞元地域バンザイ！

編集に携わった人 自治会長 川名忠弘

上湯江 石川暉久

妹は、姑も貞元出身の方ですので自分達の生まれ育った地域の今の様子を見る事が出来るととても喜んでおりました。

長男の嫁には、これからこの地域に住むうえで、

近所の屋号や家を覚えるのにとっても良い教本にあると思います。

いろいろな活用の仕方が有ると思いますが、地元貞元を、もっと良く知ってもらううえで役に立つのではないかと思います。

マップ作成の為、皆様に協力していただいた事

二十周年記念事業に参画して

貞元コミュニティセンターが誕生して20歳を迎えた節目として展開された二十周年記念事業は、初めての大きな事業の為関係者一同戸惑いながらも数回の協議を重ね積極的な地域皆さんの協力を得て、記念式典や記念盆踊り大会の充実化、植樹等全てにおいて大きな成果を上げる事ができました。これも一重に実行委員長を初めとする多くの方々の英知と行動の結果であると確信しています。特に二十周年を機に発行された「歩く見る知る ふれあいマップ貞元」は大変素晴らしい出来映えで、しかも僅か9ヶ月と云う短い期間によくもこんなに立派なマップが出来たものだと今更乍ら感慨深いものがあります。

と云っても完全なものではなく、歴史、風習四季移り変わりの様子等伝えきれない所もありますが、連日の編集会議打合せにも誰一人音上げる者もなく一人一人が少しでもよいものを作ろうというその場の雰囲気感銘し、自分にもそう云い聞かせ

を、とても感謝しております。ありがとうございました。

編集に携わった人

自治会長 石川暉久 小林たすみ 永嶌一環
石川憲章 永嶌伸安 小林一臣 篠田富男
山下和弥 小林八重子

下湯江 吉田 勝

参画して来た事がふと思い出されます。

先日、「マップを手にして貞元を見て廻りましたよ」と云う御婦人に会いました。又ある事業所の入口に「自由にお持ち下さい」と商業マップが置かれているのを見かけました。この様に一人の思いがけない発想が現実として活用されているのです。このマップを子供達の教材として、地域を知る道しるべとして一人でも多くの人達が携え、貞元の姿を改めて認識して頂くならば編集に関わった関係者にとって何よりも得難い感動でありましょう。

本書の刊行にあたりご協力を頂いた方々、事務局の皆様に心から感謝申し上げます。

編集に携わった人

自治会長 吉田 勝 山田淳子 久保田史郎
古原忠治 三幣薫久 嶌野 正 吉田浩哉
鈴木利江 福原和宏 館石亮行 和田喜美子
久保田透 鈴木善也

「中富郷土誌」編集の経験を活かして

中 富 齊 藤 貞 夫

20周年記念事業の事務局長として、また、マップ作製の提案とその副委員長の立場上、マップを約8ヶ月で作製するために全体の把握と推進を図なければならない。そのためには中富のマップを他地区に先駆けて作製しなければならない心理的重圧がありました。

幸い、中富には「中富郷土誌」を編集した時の委員会がありましたので、その方々にも編集委員をお願いしました。委員長は石川昭氏は、昔の写真や絵などが大事に保管されており、数多く提供と助言・指導をしていただきました。

古文書は、400年前の畑野帳や絵図による小糸川の移り変わりなどが殆んど虫食いもなく大事に保管されています。これは、先人の方々がしっかりと管理してくれたお蔭です。

そして、新しい道路の建設、大草平内三百年法

要と記念碑建立など、題材に恵まれ選択するのに嬉しい苦労をしました。こうして歴史の節目にマップができたことは中富郷土誌とともに貴重な財産になりました。

地域環境は、これから大きく変貌する事が予想されますが、貴重な文化財やカメなど自然の良好な維持と、住民の睦が限りなく続くことを願っています。

「中富郷土誌」編集の経験がなければ、マップ作製の提案はしなかったと思います。中富の編集委員の皆様にはお世話になりました。

編集に携わった人

齊藤貞夫 齊藤 優 自治会長 齊藤利夫
田村よし子 石川 昭 齊藤 諒 齊藤 汎
田村高治 齊藤寅雄 小西正己 齊藤邦雄
田村国雄 榎本治子 笠原範子

地元と社宅の人との更なる交流を願って

日鐵運輸(株)上湯江社宅 樋 渡 康 隆

貞元コミセン20周年事業として、貞元地区のマップを作成しよう、祝賀会を開催しようとする声が聞こえ出したのは何時の事だったか思い出せない。色々と仕事のことで忙しい時だったと思う。最初は何をするのか、何から手をつけてよいのやら参加の人それぞれに困惑したような顔をしていたのが印象に残っています。

自分は、社宅のこれまでのいきさつを、語れば良いと思い、自分なりに社宅の図面や子供との思い出が幾らかあったのでその事でもと原稿をパソコ

ンに入れて用意したのを思い出す。しかし、必要とした原稿は会社をお願いすることになり、利用する機会はなくなった。

このたび、20周年事業に関して寄稿依頼を受けたので、パソコンに入力した原稿の一部に触れて見たいと思う。

同じ上湯江の住民として大宮神社のお祭りも呼ばれ宵宮(夜祭り)にも出向いてみた。なかなか良い宵宮であった。翌日、御神輿も出て賑やかなお祭りが始まった。私なりに、お祭りにも秩序ある

行動が求められるが、秩序を守らない子供、それを叱れない大人、地元と社宅の人たちのギャップなどが数時間のなかで起きていた。また、大宮神社のお祭りに呼ばれても、社宅の祭りには地元の人を呼ばない、交流の場が少なくなっている中では、子供だけでも呼べたらと考えます。

かつては、上湯江の子供より社宅の子供が多い時代もあったが、共に子供が少なくなり、それを心配する年寄りや親たちがいます。

地元との交流は、幼稚園か小学校が始まりと思う。社宅の人はいずれ転居しなければならない宿

命にありますが、社宅からは、地域交流の場である貞元コミセン、整備されつつある美しい三舟山が見えます「ふれあいマップ貞元」の発刊を機に、出会いの縁を大事にする交流の輪が更に広がることを願っております。

編集に携わった人

自治会長 樋渡康隆 樋渡雪子

古い縁を大切にともに歩みましょう

上湯江市場自治会 栗山富士男

当上湯江市場に一戸住宅を購入して住み始めてから読んだ「西かずさ昔ばなし」のなかに木更津の地名のいわれを記述した一説があり、印象に残った記事が今も忘れられない。地名のいわれは三つあり、一般的に知られているのは日本武尊と弟橘媛にかかわる地名の由来と、アイヌ語のキサラブ(海岸が耳たぶのような地形から)キサラヅと変化して木更津と呼ばれる説、又二月の事を「きさらぎ」と言いますが、当房総の人達には家族と別れて3年もの長い間、北九州の防人達が帰ってくる嬉しい時期でもあり又北九州の守りに船出する悲しい別れの時でもあつたと記されていましたが、最後のフレーズが今でも心に残っており、かなり古くから当地域と北九州との交流があつた事を身近に感じ、たどって行けば何処かで親戚関係が?と思

いながら貞元コミュニティセンター20周年記念誌の部分記事を担当しました。団地掲載箇所に自治会の行事を写真入りで挿入して頂きありがとうございました。

当自治会の所在地、世帯毎の、氏名が記録されてなかつた事に対して、手直して頂き感謝申し上げます。初期に住居した人達には第二の故郷で、当地で生涯を迎え又迎えようとしております、子供達にとつては美しい風景と思い出が詰まった人情味豊かな故郷です豊かな自然を生かし、心が通い合う素晴らしい町創りを手を取り合せて進めて行きましょう。

編集に携わった人

栗山富士男 自治会長 中路敏則 古賀義彬
三村竹人 山口和広

ふれあいマップ貞元を見て

私は、貞元に住んで33年になります。30年前の君津と比較すると、川向こう(君津駅周辺から国道127号方面)は都市化が進み昔の面影は消え、久しぶりに帰省した人などは自分の行き先に戸惑うほどになってしまった気がします。しかし、川を境に貞元地区は緑が多く田園風景が広がる、昔のままの環境が残っている住みやすい地域だと思います。

昔と変わらないと言っても、自分の生活してきた中で見た所だけのことであって、本当の貞元については全く知らなかった様に思います。今回「ふれ

君津共同火力社宅 小沢靖夫

あいマップ貞元」を見る事により、

貞元地域の歴史と風土にふれる事が出来、思いを新たにしているところです。

さっそく、紹介された「房総往還」や「三船山」をたどり実感しています。このマップが無ければ、このように散策することもなかったと思います。マップ作成には大変苦勞された事と思いますが、このマップを見る事により、多くの人が貞元地域を見直すことが出来たのではないのでしょうか。

編集に携わった人

自治会長 小沢靖夫 森 将司

地域と共に

高田工業所は、集落から離れた場所にあり、しかも独身寮ですので児童もいなく地域と疎遠になりがちですが、私は、数年前に家族で転勤してまいりました。地元をまったく知らない私たちにとりましては、地元を知る貴重なマップですので活用させていただきます。

編集にあたっては、会社・社宅の紹介を会社の

高田工業所 熊本祥男

担当課長に原稿をお願いする話をしただけですが、今回のことで会社の歴史も少し知ることができました。これからも貞元コミセン活動推進委員、防犯委員等として地域の皆様とお会いする機会がありますので、よろしくお願ひします。

編集に携わった人

高田工業所高芝寮 自治会長 熊本祥男

造成前の地形がわかる貴重なマップ

郡の杜 光野幸弘

「ふれあいマップ貞元」完成おめでとうございます。私は、郡の杜地区の代表編集委員といっても、団地のあゆみの紹介を執筆しただけでしたが、完成したマップを見ますと、明治15年の地図、君津市が区画整理する前の昭和45年の航空写真、あるいは、郡の杜の造成完了時と現況の写真が掲載されており、郡の杜の住民にとっては、造成前の地形が歴史的に一目で解かり大変貴重なマップです。

さらに、貞元小学校に通う郡の杜の小学生の絵が、他地区のマップの中に採用掲載されており、その児童、家族は、良い思い出になることでしょう。10回もの定例編集会議をはじめ、個別打合せや暮れ、正月もマップの作成に取り組んでくれた、各地区代表編集委員には、頭が下がる思いです。ご苦労様でした。

編集に携わった人

光野幸弘 中村キヨ 菅嶋剛史

編集活動の協力に関わって

——編集協力者の文集——

すばらしい地域連携に触れて

北子安（きみつシステムセンター有限公司） 原田 誠 一 郎

平成16年のもうすぐ年の瀬を迎えようという頃、まちづくり塾で知り合った齋藤貞夫さんからパソコンでマップを編集してほしいのだがと切り出され、簡単でいいよとの言葉を受けて、できればともかくとりあえずやってみましょうかということで気安く引き受けてしまいました。

同じパソコンでも、コンピュータのプログラムを作るのが本業であり、絵や写真を組み合わせてマップを編集する作業は試行錯誤の連続で、締め切り日に追われながらも皆様方に正月返上でご支援をいただき、ようやくにして編集を終えることができました。資料の収集から整理・絵図の作成など膨大な作業をこなされた方々に敬意を表するとともに、編纂作業の一部に加えていただいたことにお礼申

し上げます。

今回の作業を通じて、貞元地区の多くの方々が労苦をいとわず熱心に取り組まれている姿に触れ、今や薄くなりつつある地区住民の連携が健在であることに感銘しました。昨今、日本の治安は悪化の一途をたどりつつあります。また、温暖化の影響からか天災が猛威を振るい、特にこのあたりは大規模地震の脅威にさらされています。

安全・安心で快適な環境を守るには地域住民のコミュニケーションが基本と考えております。地域が発展するにつれ、私のように県外から移り住んで来る住民も増え、いろいろと難しい課題もあるでしょうが、今後とも、このすばらしい伝統を守り続けていきたいと願っております。

マップ作りに見た貞元の底力

貞元に関わらせて頂くのは「貞元地域誌」に続いて2回目です。いずれも編集の一端に加えて頂きましたが、とても得をした気持ちです。それは編集作業によって、貞元の事をより深く知ることができたからです。そしてさらに、貞元と貞元の子どもたちの未来を考える方々がたくさんいるということを知ることができたからです。

編集をしていて心に残ることがいくつかありました。

外箕輪 新井 克 枝

先ず一つ目は、自然の豊かさです。それぞれの地域でマップに載せる写真選びは、甲乙つけがたく、スペースがあれば、どれも載せたいと思われる程でした。

二つ目は、代々伝わる年中行事を大切にしながら暮らし、それが次代を担う子どもたちに脈々と受け継がれているということです。

三つ目は、それぞれの地域で人々の為に役立とうとする多くの先人がいたことです。

四つ目は、地域の人々がしっかり結びつき、温かい気持ちと声を掛け合い暮らしているということです。

そして最後は、編集委員の方々の行動力です。会議は決められた時間内に予定された議事をす

べて解決し、分担された仕事に、早速とりかかるとそのパワーは、やはり貞元を愛するからなのでしょう。

こうして多くのことを学ばせて頂いたことに感謝しております。

皆で考えよう郷土の未来

昭和59年貞元コミュニティセンターが完成した折「この機会に地域を再認識しよう」という声がおこり、『貞元地域誌』が企画・編集されました。当時は君津市史の編さんが進行中で、史料を利用するのに恵まれた時機でした。

今日いろいろの地方史が各地で編さんされていますが、いずれも最新の学問上の成果が取り込まれており、「貞元地域誌」も同様でなければならぬと考えました。

そこで既刊の「君津市史」の史料集を編集委員全員で読んでいくことにしました。

時間がかかっても、編さんの素地をつくる上で極めて重要な仕事でした。古文書の原文を読むことははじめました。この時は杉谷の渡辺佳哉君が大

貞元 鈴木精一

きな力を発揮してくれましたが、半ばにして不帰の人となり、残念至極でした。このような努力が10年間つづき、「貞元地域誌」は完成されました。「史」を「誌」としたのは、取り扱う内容を広げたためです。

地域誌完成後、今回の「マップ作り」の計画をききました。多くの人に参加していただき、地域内をくまなく調べることは、現況を認識する上でこれ以上のものはありません。私も乞われるままに地名について書きました。このマップと地域誌が両々あいまって地域の理解が深まり地域発展につながることを祈念いたします。

関係者のご努力を深く感謝し、筆をおきます。

約9千年前の縄文土器発見

20代が戦争で終わった私は、終戦ののち何の目標もなく、ただ食べることの大切さを感じて農業に取組んだ。

農作業中に目にとまった孔のあいた石製品や鍬(やじり)を拾い集め、何であるか解からないまま持

新御堂 高橋聖雄

っていた物が、実は、千葉県下でも数少ない祭祀遺物であることが立正大学考古学久保常晴教授によって明らかになった。

それまでに至ったきっかけは、当時2歳になったばかりの息子が、付近の麦畑で踏査中の青山頭

章氏(富津市 大正寺住職)に会い「おじちゃん何やってんの」と話しかけ、青山氏の手に持つ土器片を見て「うちの父さんそんなのいっぱい持ってるよ」の一言で来訪された。

青山氏が遺物を確認して立正大学に報告し、それによって昭和33年秋発掘調査を実施、学会未知の祭祀遺跡が荘台(かざりだい)に存在することが確認され、坂詰秀一先生の論文(1958年7月立正大学考古学会発刊、銅鐸第14号)によって広く学会に紹介された。

私にとって特に印象深く、また、本市ではきわめて珍しく日本でも数点しかない甗(こしき)が、息子

が可愛がっていた愛犬が死んだため、葬ってあげようと墓穴を掘ったところから発見されたことです。

さらに、最近、上荘台で畑に開墾中の主婦が約9千年前の「底のとがった縄文土器(田戸下層式)」が発見され、復元されるのを待ち遠しく思っていることです。

このようなことから、先人の残した文化遺産の偉大さや尊さ等身をもって感じています。

そして、私たちの身近なところに存在している文化遺産の保護と活用を通して、郷土に対する愛着を深め、文化財愛護の輪が一層広がっていくことを心より念願するものです。

地域を愛する心

「灯台下暗し」ということわざがある。私たちは、世界のこと、日本のことに関心を寄せ、話題として共に語り楽しんでいるのが現状だ。

しかし、意外に郷土や自分の部落のことを知っているようで知らないことが多い。今回の貞元地区のマップを作ったことは、誠に喜ばしいことである。出来上がりのマップを見ると、地元のことを知らないことが多いことがわかる。

身近なことを知ることは、郷土を愛する精神につながると言える。大人も、子どもも、このマップを通して、貞元の歴史や、自然のすばらしさを理解する

八幡 前田 益夫

ことができる。

私も70才を過ぎたが、貞元全体を見て、各部落のこと、自然のすばらしさを知らなかったことに気がついた。

このマップが、貞元小の子供たちにとって、郷土を愛することに役立つマップになることを信じた。

自分の生れた土地を理解し、愛することが、他人の心を理解する大切な条件になると思う。

最後に、記念事業の役員の方々のご苦勞に対し、深く感謝申し上げます。

大切にしたい自然と野草

齊藤 八重子

ふれあいマップ貞元の編集委員から、マップに

掲載する野草についての協力依頼があり、詳しく

聞ききましたところ、春から夏の植物の写真等は何とかあるので、秋から冬の植物について題材の提供でありました。

私一人ではできないので、かつて一緒に植物調査やその記録をした方々と相談して、9月下旬に貞元小学校の先生、マップ編集委員の方々、元貞元分館事業「自然とふれあい教室」の会員で、貞元コミセンから江川、新御堂、三舟山上湯江を調査しました。

何年ぶりに歩いて感じましたことは、江川は護岸が整備され植物が少なくなっていました。災害防止のためには仕方のない面もありますが・・・ま

た、三舟山には多くの方が訪れるようになり、珍しい植物が持ち出されていることでした。

それでも細々と生き続ける植物、とくに、可憐な花やこの地域では珍しい「ツリフネソウ」「カリガネソウ」「トリカブト」等をやっと発見したときには、胸が時めきました。

幸い、三舟山は君津市で、昔からの生態に近づけるよう整備が図られることは、せめてもの救いと考えるとともに、都市化された地域に隣接してこの貴重な自然があることを誇りに思い、野草とともに共存できる環境づくりができることを願っております。

活用しています「貞元ふれあいマップ」

平成17年2月にこの「貞元ふれあいマップ」(以下ふれあいマップ)が学校に届いた。編集している段階でだいたいのイメージを持っていたが、各ページとも配色や配置の工夫によりすばらしいマップとなっていた。

学校では、総合的な学習等の時間に活用できるよう、50冊購入。実際に使ってくれるかどうか心配であったが、さっそく3年生が貞元の地域探検、6年生は社会の歴史学習において、一人一人が「ふれあいマップ」を見て、ルートや見学場所などを調べていた。担任の今西先生関原先生の話によると「このマップは、家や史跡、歴史、各地区の行事等

貞元小教諭 三田 彰一

結構網羅されているので、非常に使いやすいし、わかりやすい」とのこと。他の先生方からも「すばらしいものができたね」という声が聞こえてくる。

私は、このマップの編集に携わり貞元地区の力強さを感じるができた。編集作業では写真の取り込み程度の仕事しかできず申し訳なく思っている。今後このマップを学校内で十分活用していくことこそ大切だと考えている。貞元小学校の児童一人一人が本がぼろぼろになるくらいまで何度も見るような学習をとおして、貞元のことがよくわかる子、また貞元地区が大好きな子を育てていきたいと思う。

「地域と共に歩む学校」を後援

貞元小学校PTA会長 下湯江 平野 功

貞元小学校では、貞元コミュニティセンターが開館20周年記念事業として、貞元地域の文化財や伝統、自然等をマップに反映、住みよい「ふるさと貞元」の環境づくり「地域と共に歩む学校」の教育に資することを目的に、「ふれあいマップ貞元」を作製することに全面的に協力する旨を聞きました。

PTAとしても学校を後援している立場から、どんなお手伝いができるかPTA役員会で協議した結果、マップの作製費用を安くできることを考えました。具体的には、印刷屋には可能な限りパソコンに入力したデータを提供することを貞元小三田先生と連携して推進しました。

まずは、小林正視さんが地図作成に長けているので、家を配置した手製の地区をのぞき、たたき台の地図を作成してもらいました。しかしながら、あまりにも時間的に厳しい状況下でもあること、また、それぞれ仕事の合間を縫っての協力しかできないの

で、是非とも「ある程度の割り切り」について、ご理解をいただいた経過があることを思い出します。

私も、仕事との兼ね合いで印刷屋に提供するデータは、最後までフォローできませんでしたので、事務局長の齊藤貞夫さんの判断で、仕上げは、きみつシステムセンターの原田さんをお願いすることになりました。

そのような中で、完成したマップを見ましたら、当初、目的に掲げた事柄がほぼ達成されており、かつ、予期した以上の出来映えに驚きました。

発刊にあたって、貞元小河野校長先生は、【活用します！。「ふれあいマップ貞元」】のタイトルで、良い教材にしたいと述べられております。

私も同感で、その編集の一端で編集委員の皆様と一緒に協力させていただいたことに感謝を申し上げます。

上湯江 小林正視

地図の作成や家のマークを配置する等の編集に協力していただきました。（本編集者）

見て 聞いて 知る そして記録に残す

人見 元岡睦視

私にとって君津は終生の地だ。と、決意してから最初の出会いは、君津市君津中央公民館・周西分館主催事業「地域再発見教室」でした。テーマは「わたしたちのまち周西を大発見する」という内

容で、カリキュラムの中に「周西・東地区の歴史を訪ねる」がありました。「見て、聞いて、知る。そして記録に残す」をライフワークとしてスタートした私にとって格好の学習材料でした。

その後、小糸川下流域の自然を画像に収め、記録することをテーマにブラリ歩きをはじめました。四季折々の自然との触れあいは心がなごみ、癒されます。

「この大切な自然を大切に守っていかなければ」と思っていた折、斉藤貞夫さんにお逢いしました。これが契機で「貞元ふるさとマップ」編集の話を知り、資料提供をさせていただくことになりました。

貞元地区の事業担当として

公民館に「斉藤貞夫」さんが入ってこられ、私に1冊の大きな本を手渡してくれました。それは『ふれあいマップ貞元』でした。早速、開いてみると貞元地区の名所などひと目でわかりやすく載っていました。すると「あっ！ここ知ってる！」「そうそう！ここは秋に歩いた時、紅葉がきれいだった！」など、貞元分館事業の「貞元おもしろ探検教室」の講座で歴史と文化を勉強した当時のことが思い出されました。

貞元地区の地名や場所もわからなかった私でしたが今は、このマップを見て「えっ！こんな所もあつ

私にとっての「貞元ふるさとマップ」は、貞元地域を見て、聞いて、知る。貴重な体験でした。冊子を見て、構成の素晴らしさ、地域の人たちが地域に込める熱意。そして、子どもたちへ地域教材として語り継がれることを知り大変感動しました。

この成果を、今後の活動に反映していきたいと思います。地域に人が、地域の中で。地域ならではの創造をする。そんな未来を願う次第です。

君津中央公民館 渡 邊 い ち 子

「たんだあ！今度、行ってみよう！」と場所がわかるようになりました。それほど貞元地域に密着してきたんだなあとうれしくなりました。私もこのマップをもっと貞元地区を知りたいと思い、地域に役立つ講座を考えたいと思います。

また『ふれあいマップ貞元』の表紙の絵は公募により貞元住民が描いた絵であり、それぞれの大字地区には貞元小学校児童の絵の挿絵が入っており、地域の皆さんがひとりひとり協力し出来上がったマップを大切にしたいと思います。

20周年記念事業を振り返って

——実行委員会役員・協力者の文集——

満足感

会長就任後初仕事が、コミセン開館20周年記念実行委員の立ち上げでした。その後のコミセン行事はすべて「開館20周年」と名前を添え実施しましたので、この1年は祝賀ムード一色でした。

そんな1年間を顧みて思うことは、この貞元地域の方々は協調性と団結力が強いと言う事です。一つの行事を計画すると皆が熱心に盛り上げようとする気風があります。

20周年記念事業の目玉商品であります「ふれあいマップ貞元」は、全くの素人集団がたった8ヶ月の短期間であれ程のマップを作り上げた実績は、そのことを物語って余りあります。私がこのことについて満足感を持ったのは、完成後しばらく経てからでした。自治会長さんを主とした編集委員のために、忙しい中に協力をしてもらえるのか。期間が8ヶ月しかない。

実行委員長 小林 一 臣

完成するのか。費用は足りるのか。完成したとして、予定の販売部数をクリアできるのか。

スタート時にはそんな不安ばかりでした。

そんな不安を払拭したのは、夏の終わり頃だったと思います。事務局長である斉藤貞夫さんの強力なリーダーシップ、そして綿密な計画と膨大な資料収集。それに応える編集委員である各自治会長さん。私は安心しました。

年の瀬を迎える頃、進捗状況が心配されましたが、その難局を見事に乗り越え、年明けには全てが予定通りゆくものと、私の気持ちは確信に変わりました。

コミセン開館20周年の式典で申し上げました通り、マップの完成は、貞元地区民の協調性と団結力の象徴でありました。貞元はすばらしい。貞元バンザイ。

貞元は観光資源の宝庫

商店マップ編集代表 下湯江 三 幣 薫 久

貞元コミュニティセンター会館20周年記念事業として『ふれあいマップ貞元』の作成に関わらせていただき、あらためて貞元の自然の豊かさと歴史の深さを認識すると共に、地元商業者としてこうした

自然と歴史を地域活性化の起爆剤として活用していくための工夫が今求められていることを実感しました。

また今回、記念事業の一環として「ふれあいマッ

ブ」と合わせ商店会会員の協賛により「貞元地区商店・企業・観光マップ」が発行できましたことは喜ばしいことであり、地元にも元気のある商工業者がいることのアピールにも繋がったと思います。そして、今回のマップの作成にあたり貞元に住む皆がそれぞれの役割を担い取り組むことにより、コミュニティセンターを中心に更なる一体化が図れたものと思います。

高速道路の整備が進むなか、千葉県は観光資

源と地域開発に力を注いでいます。こうしたなか君津中学校・校歌にも歌われる三船山は遊歩道などの整備がすすめられ、郡ダムは今年から湖面の利用が可能となるなど貞元地区の観光資源は君津市内でも有数の地と言えます。

また多くの古墳群や神社仏閣がこの貞元に点在しており、こうした自然や旧跡を活用した地域振興策が行政による地域整備計画と相俟って貞元地区の活性化にも繋がるものと確信しています。

20周年記念事業の企画に関わって

企画協力 新御堂 山田 信

貞元コミュニティセンター開館20周年を迎え、コミセンで2年間、お世話になった立場で何かできるものはないかと、企画面で後方支援をしようと考えました。

記念盆踊り大会では、和太鼓、チンドン屋と福山花火工場に打上げ花火の寄付をいただき大会を盛り上げました。福引きも地元商品券を記念賞として提供しました。

有志による企画として、1昨年好評だった野外大宴会、芋煮会を一緒にした大会を実施し、120数名に及ぶ参加者があり、20周年の祝いと参加者相互のコミュニケーションが図られました。

マップ編集については、若い大和田自治会長をバックアップして、地元の方々との情報交換、マップに掲載する題材について、地元のお年寄りから指導をいただき、いままで関心のなかったことまで知ることができました。

その中で、一番驚いたことは、最勝福寺に事務局長の齊藤貞夫氏と出向き、住職から今回のマップについて、目的など聞かれ話が終わった後、住職から発行部数は、800部を1000部にしてください。200部は、最勝福寺の地元以外の檀家に贈呈するからだと言われたことです。

あまりにも多いので、聞いた瞬間は自分の耳を疑う一方で、心の中でマップ作製単価が下げることができると思い、住職に感謝しました。

マップ完成後、200部購入のうえ、商店マップも300部購入されました。マップ編集に直接協力は、あまりできませんでしたが、予算面で協力できたかなと思っております。

直接、編集活動に当たられた方には、労いとともに立派なマップを作製していただき、ありがとうございました。

さらに地域住民交流の場を目指して

監 査 久 保 田 茂

いま梅雨真っ盛り、まさに雨の時節である。現代の多くの人々に都会と田舎どちらが好きという問いを出すのは蛙に水と陸、どちらがいいかと聞くようなものかもしれない。

最近、都市住民が農村に向ける関心や期待が高まっていることは確かである。都会に住む人が田舎にひかれる理由として、それぞれの思い出の中にある田舎の自然の存在を挙げている。

ふるさとである農村に帰ろうという志向はさらに高まって行くであろう。ではこうした期待に農村は応えられるのだろうか。

さて、この度の貞元コミセン開館20周年記念事業マップの発行、こころより御祝い致します。特に実行委員の皆様方の御労苦には感謝を申し上げます。編集には各々仕事を持ち乍ら、朝早く又、夜間を利用して地区の家庭を訪問し、又、自治会から

古文書等により資料の収集から整理編集まで実行委員長を軸に計画から完成迄、一年近くで記念事業誌を完成させたことに対し敬意を表すものであります。昭和36年新日鐵の進出決定以来、我が郷土君津市は大きく変わりました。かつての農漁業の街は急速に近代都市へと変貌して参りました。

その後、昭和59年には待望の地域住民交流の場である当コミュニティセンターが開館し20周年を迎えました。都会から田舎の自然にひかれ移り来る人に、貞元には素晴らしい交流の場があり、そして利用してもらえる施設へさらに成長させたいものである。今回、斉藤汎さんと私久保田が監査委員として本事業に参画させて頂きましたが、事務局の方々の御協力により無事その任を終る事が出来ました。心より御礼を申し上げます。御世話になりました。

20周年記念事業を振り返って

監 査 齊 藤 汎

貞元コミュニティセンター開館20周年を記念して、各記念行事、記念式典が行なわれました。カワズザクラの記念植樹に始まり、記念盆踊り大会、20周年記念式典、祝賀会等が盛大に行なわれました。

また、上記事業に並行し「ふれあいマップ貞元」の作成という大事業を計画、短期間にて完成させ

た事は大変すばらしい事でありました。ふれあいマップ貞元を広げてみると、田園豊かな環境に恵まれた貞元地域には、旧跡名所が各部落にあること、又マップが詳細正確な為、知人の家などを容易に確認することができました。

私は、貞元地区の歴史ある名所旧跡を後世に残してゆきたいと強く感じました。

貞元地区の誇り「マップ」

「ふれあいマップ貞元」が発行され、新聞その他で紹介されるやいなや様々な反響がありました。

都市部に住んでいる住人からは、自分のルーツを知りたいので誰を尋ねていったらいいだろう。また、苗字が珍しいので出身は貞元かしら？など、いろいろな質問を受けました。

残念なことに詳しいことはわかりません。「マップ」をよく見て下さい。としか答えられませんでした。

窓口にいらした方々がマップを見ての感想は、次のようなものでした。

コミセン事務 鈴木利江

- ・表紙のイラストが素朴でいい。
- ・マップ一冊で貞元地域のことがよく解かる。
- ・一軒一軒に屋号が入っている。
- ・貞元の自然がいい。
- ・中に入っている子供のイラストがかわいい。
- ・行事が面白い。

私自身、貞元地区に住んでいても他地区のことはよく解からなかったけれど、このマップのおかげで、よく解かるようになりました。

マップの編集に携わった皆さんご苦労様でした。そして、ありがとうございました。

いつもそばに「ふれあいマップ」

貞元コミュニティセンター開館20周年にあたり、マップを作製する事を聞かされました。

既に、「手づくりマップすなみ」が発刊されており、見せていただき、10年もの歳月がかかっていることを知り、それを1年以内で作ろうと言うものでしたので、正直“大変な事だなあ出来るのかしら”と思いましたが、編集委員長、各自治会長の方々を始め、各々がそれぞれの分野で活躍され、完成したことには驚きました。

ページを開くごとに、こんな屋号を聞いたけど実は“字”だったんだ。こんな所にこんな小動物が居るの？

コミセン事務 小林八重子

こんなの咲いてたの、こんな偉い人がいたの、また、このような由来があったんだとビックリ、見ていだけで楽しくなり、是非、歩いてみたいと・・・。

私のそばにはいつも“ふれあいマップ貞元”があります。

このようなすばらしいマップが出来上がり、1人でも多くの方に貞元を見、知ってもらいたいと子供達にも購入させていただきました。

コミセンの管理人をしてまだ数年の私が、このような機会に巡り会えて嬉しく思います。

皆様、ありがとうございました。

多くの出会いに恵まれて

事務局長 齊藤 貞夫

昨年4月に行なわれた定期総会の16年度事業計画では、貞元コミュニティセンター記念事業について検討し、実施が望ましい場合、同事業を実施します。と提案されただけで具体的な事業計画はなく漠然としたものでした。

その後、理事会と活動推進委員会で、「開館20周年記念事業」の実施とその実行委員会を組織して推進することを決定しました。そして20年の歴史を知っている歴代会長に趣旨説明とご意見を伺って、5月31日に記念事業実行委員会が設立され、7つの事業を展開することが承認されました。

漠然としたものから急に、盛りだくさんの事業計画をして実施できるだろうか、とくに、マップは、年度内に発行できるか誰もが不安や疑問を持たれたと思います。

住みよい「ふるさと貞元」の環境づくり「地域と共に歩む学校」の教育に資することを目的に、編集方針を定めたものの素人集団ですので、始めはどこから手をつけてよいやらで月日だけが過ぎました。

しかしながら、10月頃から地図上に家のマークや写真が貼付される。あるいは編集会議を重ねるうちに、地区間で刺激し合い、あるいはプレッシャーを支え合った結果、より良いマップに出来上がり、かつ、予想以上の販売部数で独立採算が取れました。

各地区の代表編集者は自治会長を兼任されている方が多く、忙しいなかにも大変なご努力をいただきました。暮れも正月も一部返上していただき、北子安の原田誠一郎宅で同氏の指導で、パソコン

上にレイアウトしていただいたことは、記憶に新しいと思います。

ほかの6つの事業も担当役員が積極的に展開し、いずれも予期以上の成果をあげることができたと思っております。その多くの出会いに恵まれた一端に触れてみたいと思います。

1. 小林一臣実行委員長、河野貞元小学校長をはじめ実行委員会役員に恵まれた。

2. コミュニティ活動を支える貞元小学校、PTA、貞元商店会等団体の協力が得られた。

3. マップ作製では、全世帯に趣旨を周知、素材の提供、表紙などのイラスト、マップ名称の募集。明治15年の地図、とうしろう倶楽部の豊富な題材、地図作成の小林正視氏、上述の原田誠一郎氏、商業印刷、小学生の絵などの採用により「ふれあいマップ貞元」の特色を出すことができました。

4. マップ販売は、最勝福寺、貞元小学校・三船会ほか大口購入者の協力が得られました。

5. マップは、国会・市内ほか図書館、県内はじめ東京、神奈川、埼玉、茨城、山口、熊本県に関心のある人に送られており、どこかで作製する地区が育つと思っています。

書き尽くせないことお詫び申し上げます。

おわりに、私は、皆様が本事業に関わった想いを記録(『記憶は薄れるが、記録は残る』)にすることが、締めくくりの務めと考え寄稿をお願いしました。

事務局からの重ね重ねのご無理なお願いに、お応えしてくれましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。